

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0208 NO88

校長 伊波喜一

あすなると もがきもがいて ぶつかりて 道の拓けん その一言で
人には、どんなにあがいても八方ふさがりの時期がある。やること・成すこと、上手くいかない時がある。将来に対する焦り・友人へのやっかみ・自己嫌悪。そんな時には、あれもこれもと手を出すのではなく、じっくりと腰を据え自分自身を磨きたい。今まで忙しくて読めなかった本を読むのもそうだし、無沙汰している友達と心置きなく話すのも良い。乾いた心に、栄養が注ぎ込まれるだろう。

人は体験を通して物事を普遍化し、抽象化して考えられるようになる。体験が多ければ多いほど人間の幅が大きくなり、人間性が豊かになる。 個性的な演技のRは、若い頃働かずその日暮らしの生活をしてきた。その内にぐうたら生活に飽きて、その分猛烈に働く。R曰く。「若い時はうんと恥をかいていい。非難され・否定されてもいい。体力があるから、またやりなおせる」。 人生は一度しかない片道切符のようなものだ。今やるべきことを先延ばしにして後悔しても、つまらない。自身のやりたいことには、直ぐに取り組みたい。仮に失敗しても、それは努力の証であり、むしろ勲章となる。